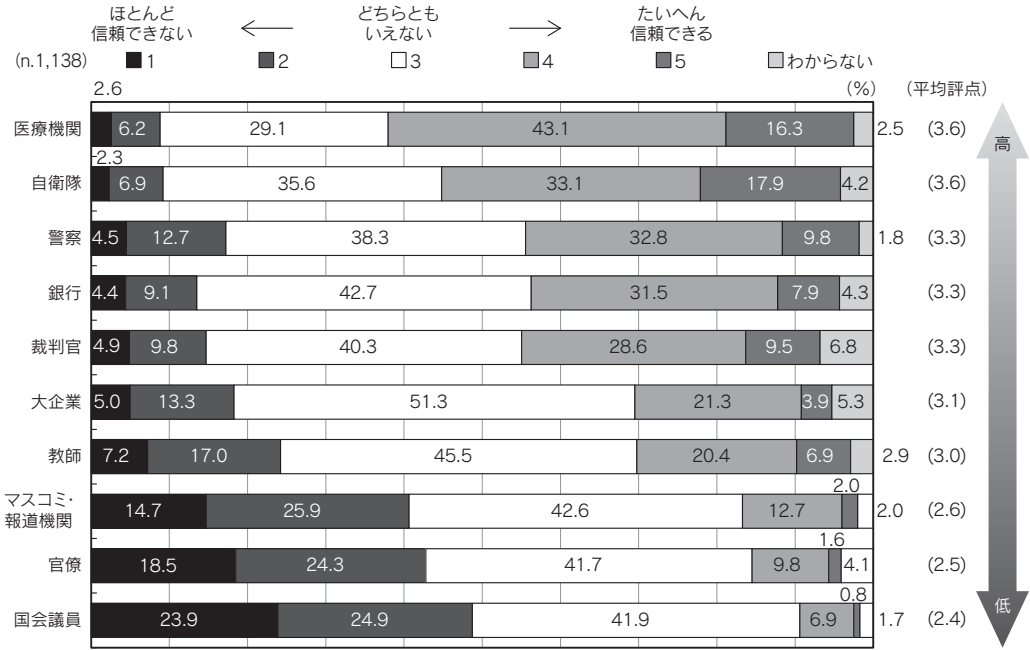
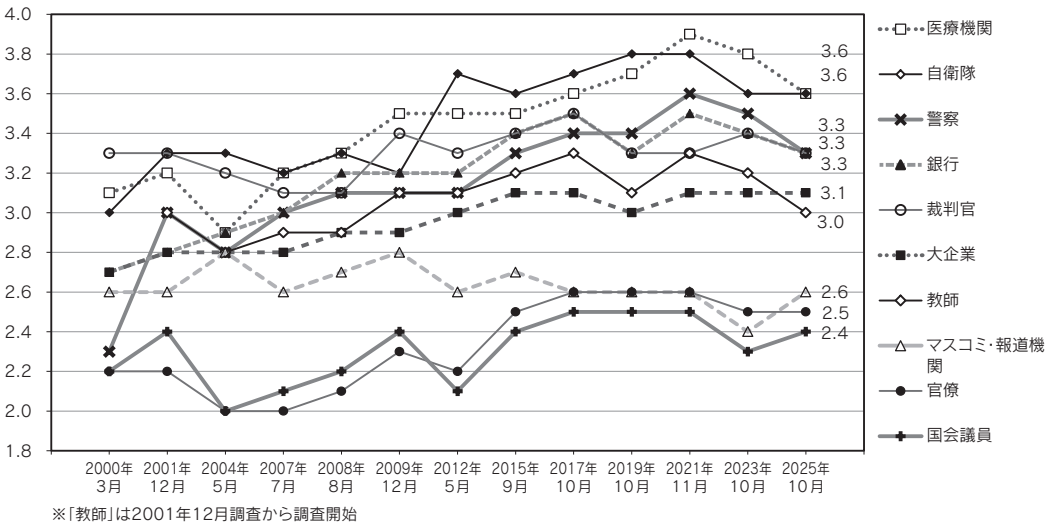


図表1 信頼感



図表2 信頼感:平均評点の推移

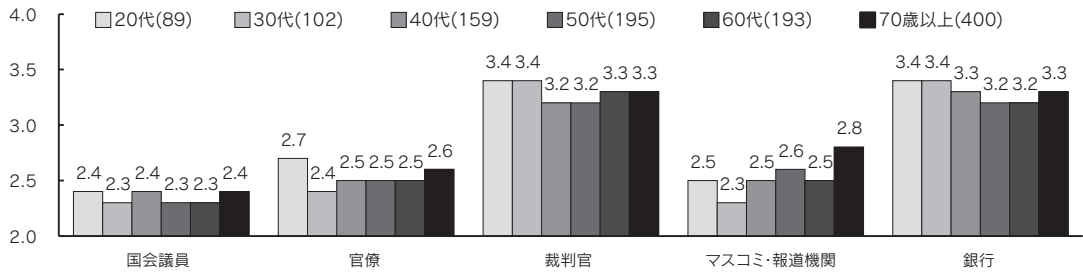


年代別で平均評点を比較したところ、マスコミ・報道機関のばらつきが特に大きかった。30代の信頼感が2.3ポイントで特に低かった。70代以上の信頼感は2.8ポイントで、30代とは0.5ポイントの差があった。また、医療機関もばらつきがあった。20代の信頼感が3.9ポイントで

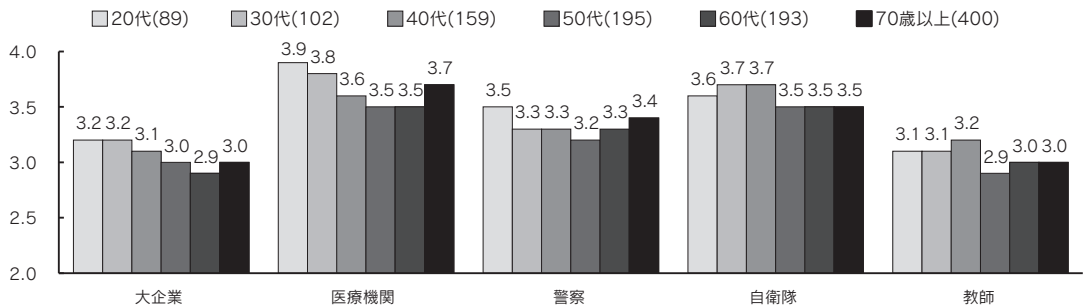
あるのに対し、50代・60代のポイントは3.5ポイントで、0.4ポイント差だった。

全体で特にポイントが低かった国会議員、官僚、マスコミ・報道機関の3項目すべてにおいて、30代の信頼感がそれぞれ2.3、2.4、2.3と低かった。また50代も、国会議員(2.3)、裁判官(3.2)、

図表3 信頼感:平均評点【年代別】



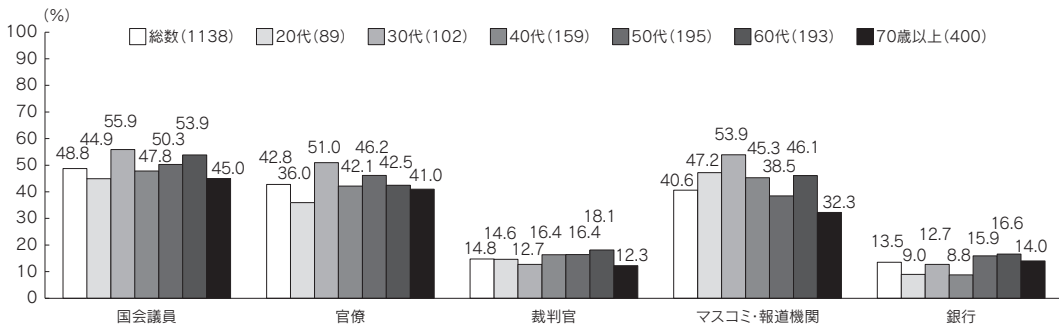
図表4 信頼感:平均評点【年代別】



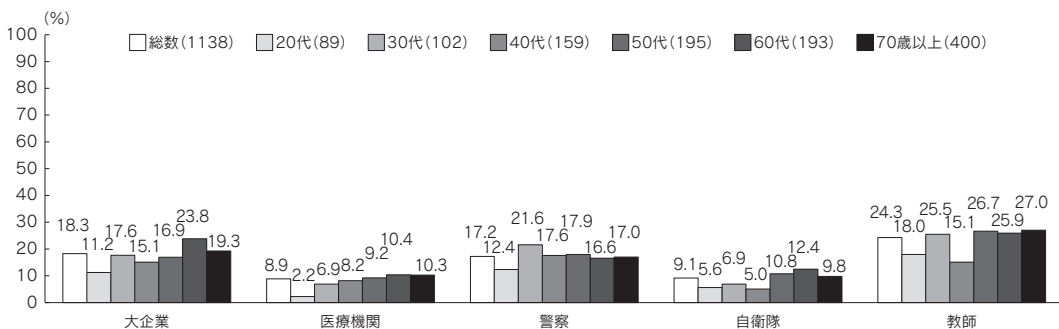
銀行(3.2)、医療機関(3.5)、警察(3.2)、自衛隊(3.5)、教師(2.9)などの項目でポイントが低く、全体的に信頼感が低かった。(図表3,4)

次に、信頼できないとする「1」や「2」の評点を「信頼できない(計)」とし、その割合を見ると、全体では、国会議員が48.8%、官僚が42.8%、

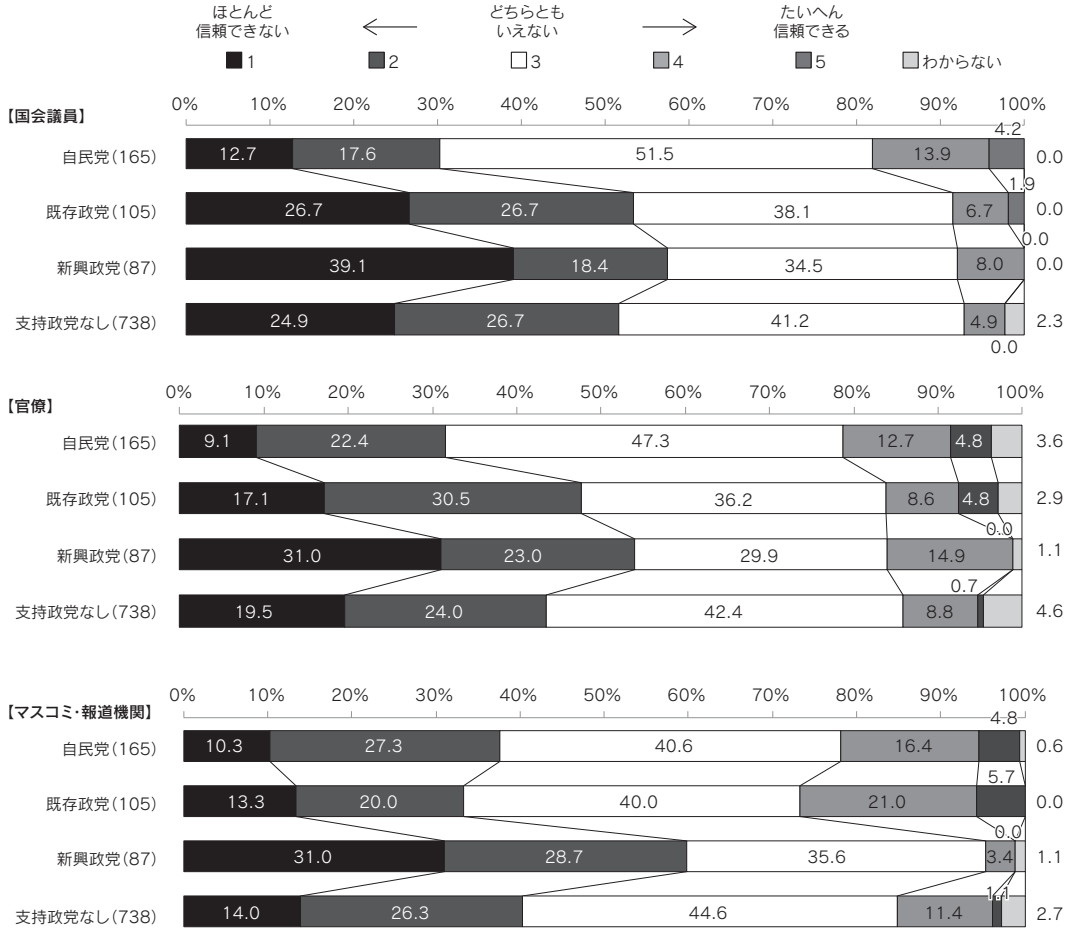
図表5 信頼できない(計)【年代別】①



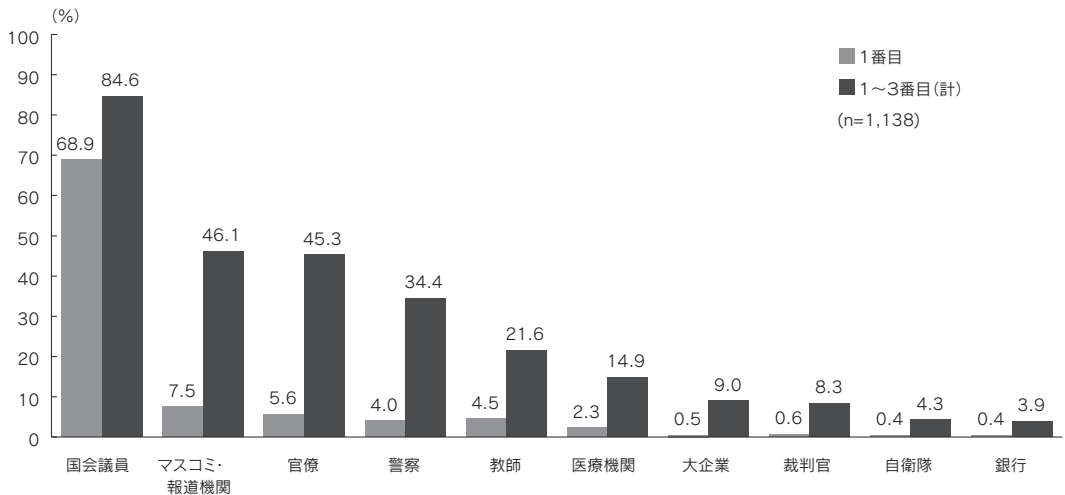
図表6 信頼できない(計)【年代別】②



図表7 信頼感【支持政党別】



図表8 信頼されるよう努力してほしい機関・団体



マスコミ・報道機関が40.6%となっている。さらに、これらを年代別で見ると、特に30代は国会議員(55.9%)、官僚(51.0%)、マスコミ・報道機関(53.9%)の数値が高く、3つの項目すべてで50%を超えている。また、60代も、国会議員(53.9%)とマスコミ・報道機関(46.1%)で割合が高い。(図表5,6)

さらに、前述の3項目において支持政党別で比較を行った。各党の支持者は少ないため、自民党支持者・既存政党支持者(立憲民主党・維新の会・公明党・共産党・社民党)・新興政党支持者(国民民主党・れいわ新選組・参政党・日本保守党・チームみらい)・支持政党なしに分けて比較をした。その結果、3つすべての項目において、新興政党支持者のほうが、自民党支持者・既存政党支持者・支持政党なしの人たちと比べてより不信感が強いことが分かった。特に、「ほとんど信頼できない」と感じている人が多い。具体的には、国会議員の場合、自民党支持者で「ほとんど信頼できない」は12.7%、同じく既存政党支持者は26.7%、支持政党なしで24.9%であるが、新興政党支持者の場合は39.1%にのぼる。同じように、官僚では自民党支持者9.1%、既存政党支持者17.1%、支持政党なし19.5%、たいして新興政党支持者は31.0%である。また、マスコミ・報道機関の場合は自民党支持者10.3%、既存政党支持者13.3%、支持政党なし14.0%、新興政党支持者は31.0%であった。(図表7)

2. 信頼されるよう努力してほしい機関・団体

「国民に信頼されるよう努力してほしい」機関・団体については、国会議員を1番目に挙げた人が半数を超えて68.9%で最も高くなった。次いで、マスコミ・報道機関(7.5%)、官僚(5.6%)、教師(4.5%)、警察(4.0%)、医療機関(2.3%)、裁判官(0.6%)、大企業(0.5%)、自衛隊(0.4%)、銀行(0.4%)となっている。国会議員が突出して高くなっており、多くの人から信頼獲得を望

まれていることが、端的に表れている。

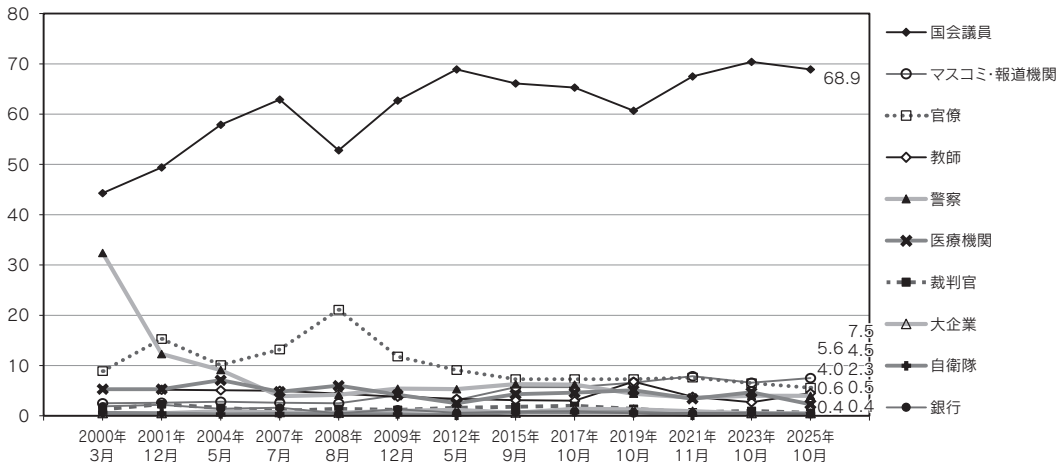
信頼されるよう努力してほしい機関・団体を3番目まで挙げてもらった合計で見た場合も国会議員(84.6%)が最も高く、次いで、マスコミ・報道機関(46.1%)、官僚(45.3%)、警察(34.4%)、教師(21.6%)、医療機関(14.9%)、大企業(9.0%)、裁判官(8.3%)、自衛隊(4.3%)、銀行(3.9%)の順となっている。(図表8)

回答結果を時系列でみると、国会議員を1番目に挙げた人は、2009年から現在まで6割以上を維持しており、今回は前回(70.4%)から1.5ポイント減少したものの、1～3番目の合計でも2009年以降は8割以上を維持するなど、すべての項目の中で群を抜いている。そのほかの項目を1～3番目の合計でみると、マスコミ・報道機関(46.1%)が前回(42.2%)から3.9ポイント上昇しており、調査開始以来おおむね上昇し続けている。一方、官僚(45.3%)は前回(51.0%)から5.7ポイント低下した。(図表9、10)

次に、年代別で各項目を比較してみると、1番目に挙げた項目では、国会議員は全年代で60%以上となっており、特に30代(77.5%)と60代(72.5%)では70%以上となっている。1～3番目の合計では、国会議員は70代以上で79.8%、それ以外では85%以上に達しており、やはり各年代で信頼獲得を強く望まれている。次に、マスコミ・報道機関は20代(56.2%)と30代(57.8%)の数値が高く、反対に70歳以上(38.8%)で最も低くなっており、特に若者世代が努力を求めている。医療機関は70歳以上(21.0%)で最も高く、次いで60代(15.0%)が努力を求めている。(図表11～13)

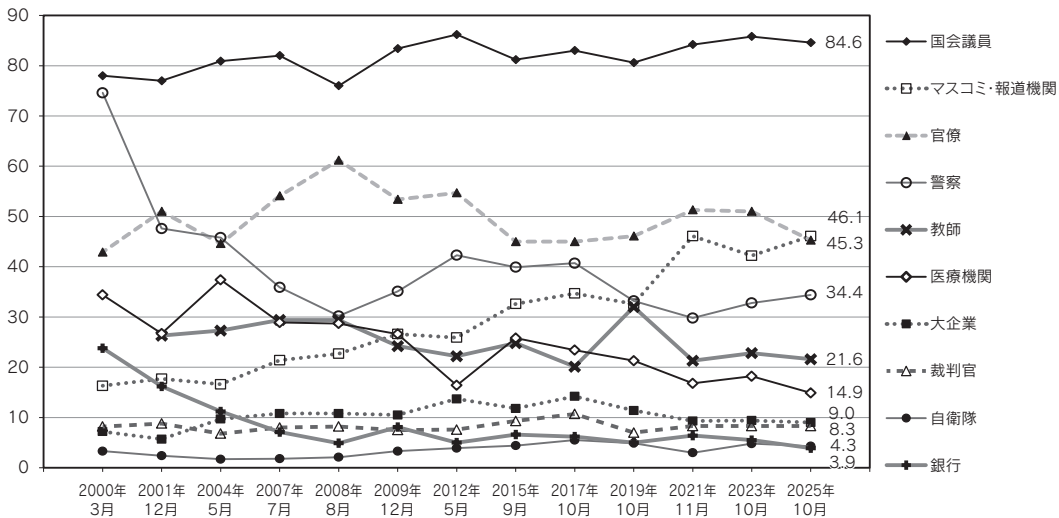
政治ニュース取得先別に見てみると、いくつかの項目で差が目立った。例えば官僚のポイントは、全体(45.3%)と比べて、テレビ(44.5%)、新聞(39.4%)、ラジオ(41.7%)で情報取得している層のポイントが低かったが、インターネット媒体から情報取得している人は全体よりポイ

図表9 信頼されるよう努力してほしい機関・団体:1番目の推移(%)



※「教師」は2001年12月調査から調査開始

図表10 信頼されるよう努力してほしい:1~3番目(計)の推移(%)



※「教師」は2001年12月調査から調査開始

ントが高めだった。具体的には、SNS(52.5%)、報道機関のWebサイト・アプリ等(51.9%)特に動画共有サービス閲覧者は62.0%で、全体と16.7ポイントもの差がある。また、マスコミ・報道機関も、全体は46.1%だが、やはりSNS(59.8%)、動画共有サービス(59.5%)を見ている人たちが、より信頼のため努力すべきと考えている。一方で警察は異なった傾向が見られ、全体が34.4%のところ、SNSが29.7%、報道機関のWebサイト・アプリ等が29.6%、動画共

有サービスが25.6%と、挙げる人が少なかったことがわかる。(図表14)

3. 閉鎖的な機関・団体(国民に対する情報公開)

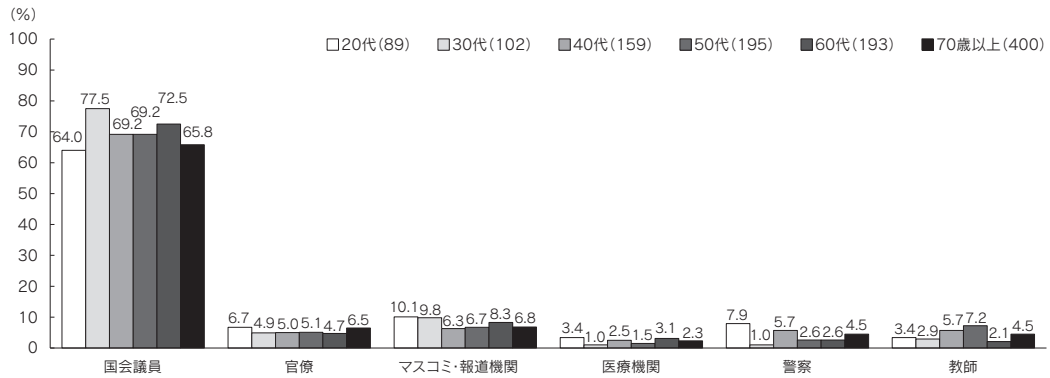
「国民に対して閉鎖的で、情報公開が進んでいないと思う」機関・団体を2つまであげてもらったところ、国会議員(55.1%)と答えた人が最も多く、官僚(40.2%)が2位となった。国会議員は前回(58.0%)から2.9ポイント、官僚(45.6%)は5.4ポイント、それぞれ低下したものの、依然

として他を大きく上回っており、調査開始以来その傾向に変化はない。今回は警察(21.8%)が3位となり、前回(18.1%)より3.7ポイント上昇した。前回3位だったマスコミ・報道機関(16.1%)は、前回(18.4%)より2.3ポイント低下し、今回順位は4位となった。(図表15)

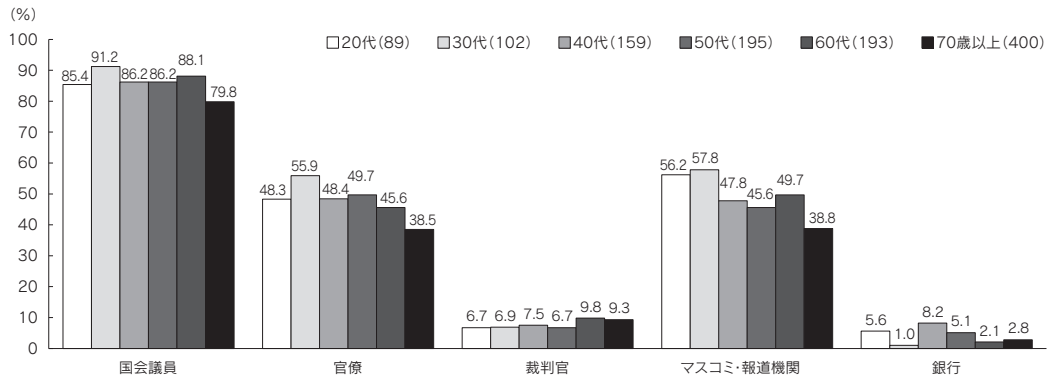
年代別で各項目を比較してみると、国会議員

は70歳以上が48.5%、それ以外のすべての年代では50%を超えている。また、官僚も30代から60代で40%を超えており、多くの年代が国会議員と官僚については閉鎖的だと感じている。また、ここでも30代の数値が特に高く、国会議員は67.6%、官僚は48.0%であり、最も低い数値の年代(国会議員は70歳以上で48.5%、官僚は

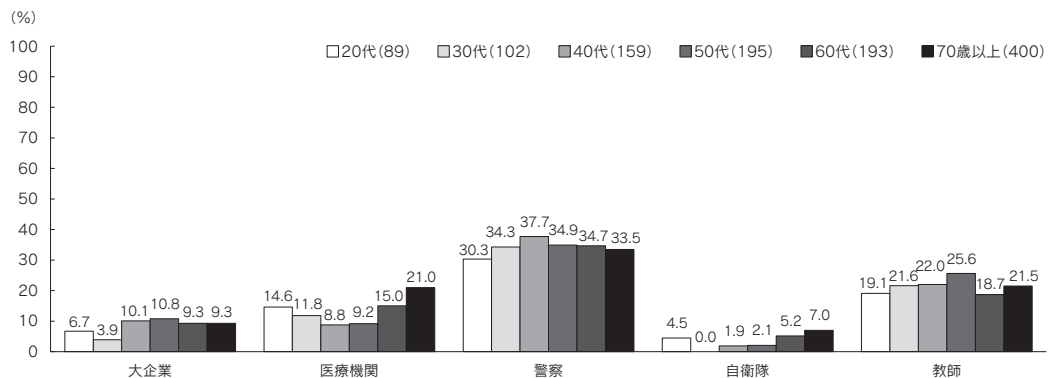
図表11 信頼されるよう努力してほしい機関・団体：1番目【年代別】主要6項目



図表12 信頼されるよう努力してほしい機関・団体：1～3番目【年代別】①



図表13 信頼されるよう努力してほしい機関・団体：1～3番目【年代別】②

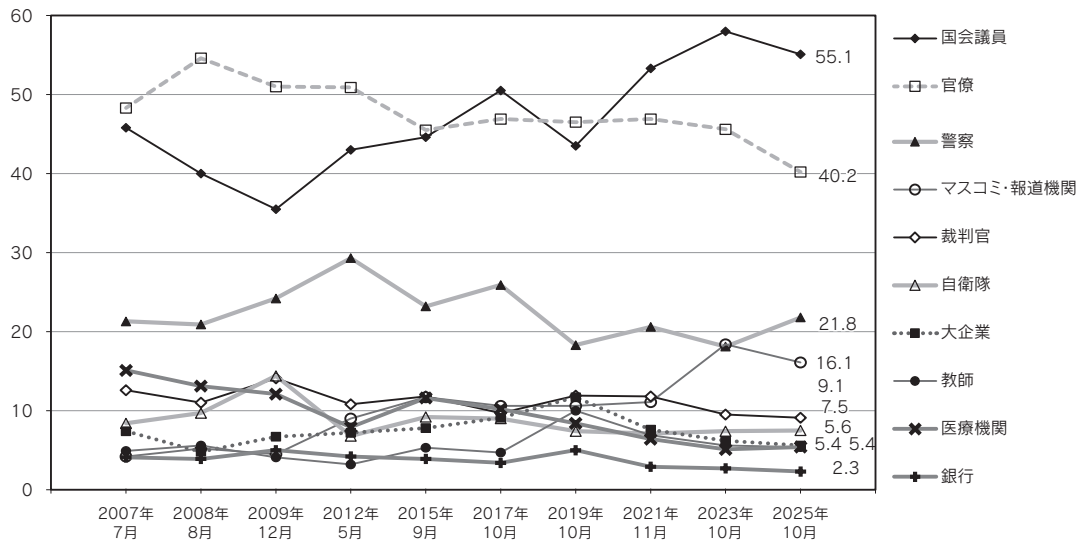


図表14 信頼されるよう努力してほしい機関・団体【官僚/マスコミ・報道機関/警察】:(1~3番目計)【政治ニュース取得先別】

	国会議員	官僚	マスコミ・報道機関	警察	教師
総数(1138)	84.6	45.3	46.1	34.4	21.6
テレビ(938)	85.6 (+1.0)	44.5 (-0.8)	44.2 (-1.9)	36.1 (+1.7)	22.4 (+0.8)
新聞(495)	84.2 (-0.4)	39.4 (-5.9)	45.7 (-0.4)	34.7 (+0.3)	23.2 (+1.6)
ニュース配信サービス(421)	89.3 (+4.7)	48.5 (+3.2)	51.1 (+5.0)	38.2 (+3.8)	21.4 (-0.2)
SNS(276)	89.1 (+4.5)	52.5 (+7.2)	59.8 (+13.7)	29.7 (-4.7)	18.1 (-3.5)
報道機関のWebサイト・アプリ等(162)	88.9 (+4.3)	51.9 (+6.6)	54.3 (+8.2)	29.6 (-4.8)	18.5 (-3.1)
ラジオ(127)	81.1 (-3.5)	41.7 (-3.6)	45.7 (-0.4)	35.4 (+1.0)	20.5 (-1.1)
動画共有サービス(121)	92.6 (+8.0)	62.0 (+16.7)	59.5 (+13.4)	25.6 (-8.8)	21.5 (-0.1)
雑誌(47)	83.0 (-1.6)	59.6 (+14.3)	53.2 (+7.1)	36.2 (+1.8)	17.0 (-4.6)

※()内は全体%との差・差が一番プラスに大きい項目は白字網掛け、一番マイナスに大きい項目は黒字網掛けで表示

図表15 閉鎖的で情報公開が進んでいないと思う機関・団体の推移(%)



20代で36.0%)と比べると、10ポイント以上の差がある。(図表16、17)

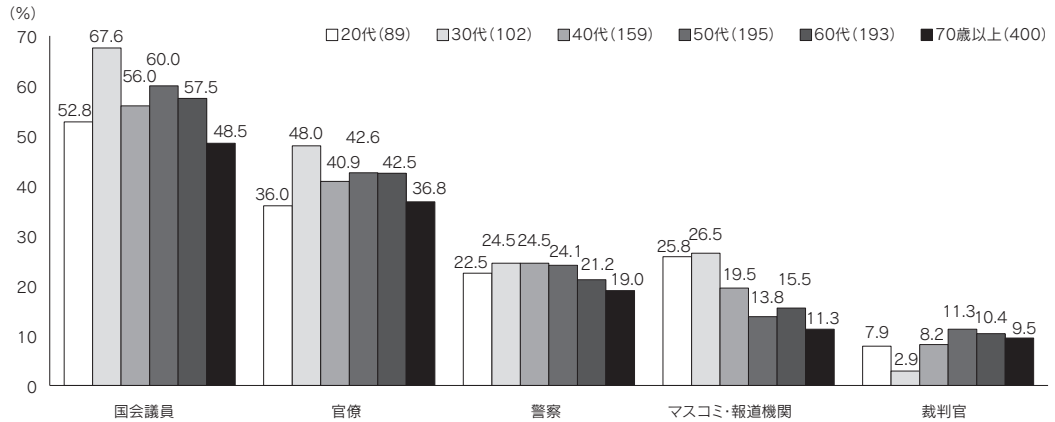
4. 世論調査への信頼感

世論調査に対する信頼感について、今回新たに聞いた。「ほとんど信頼できない」、「あまり信

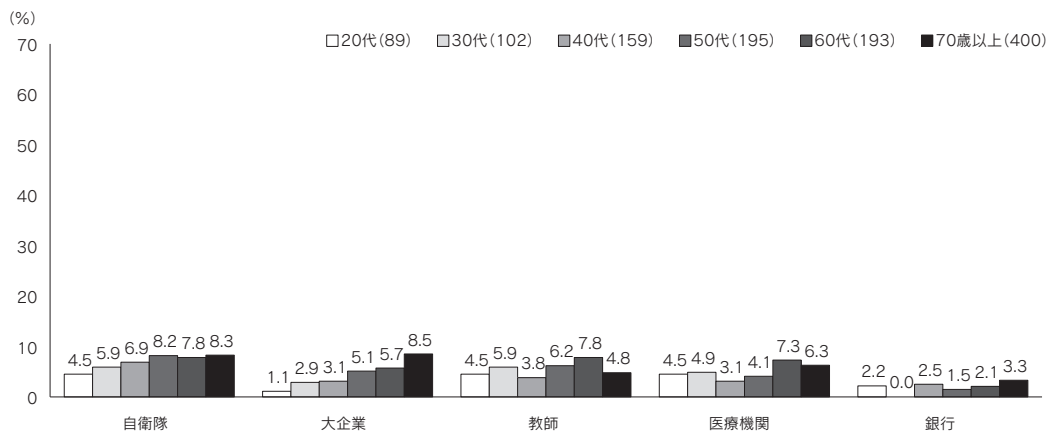
頼できない」、「どちらともいえない」、「まあ信頼できる」、「たいへん信頼できる」の5段階で評価してもらった。

「ほとんど信頼できない」が8.6%、「あまり信頼できない」が25.4%で、『信頼できない(計)』は34.0%となった。一方、「まあ信頼できる」が

図表16 閉鎖的で情報公開が進んでいないと思われる機関・団体【年代別】①



図表17 閉鎖的で情報公開が進んでいないと思われる機関・団体【年代別】②

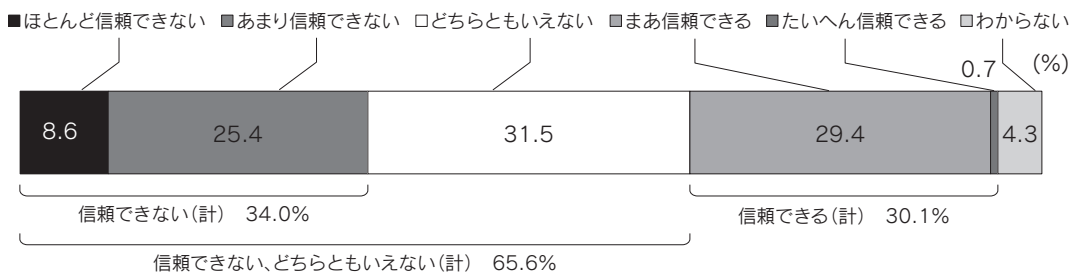


29.4%、「大変信頼できる」が0.7%で、『信頼できる(計)』は30.1%となり、信頼できないと感じている人のほうが多いという結果になった。また、『信頼できない(計)』と、『どちらともいえない』を合わせると65.6%となり、50%を超える。過半数の対象者が、世論調査を「信頼できる」と

は回答しなかった、という結果になった。(図表18)

年代別にみると、20代から60代は『信頼できない(計)』が30%以上あり、特に20代は44.9%にのぼる。若いほど信頼感が低いというわけではなく、60代も『信頼できない(計)』が39.4%

図表18 世論調査の信頼感

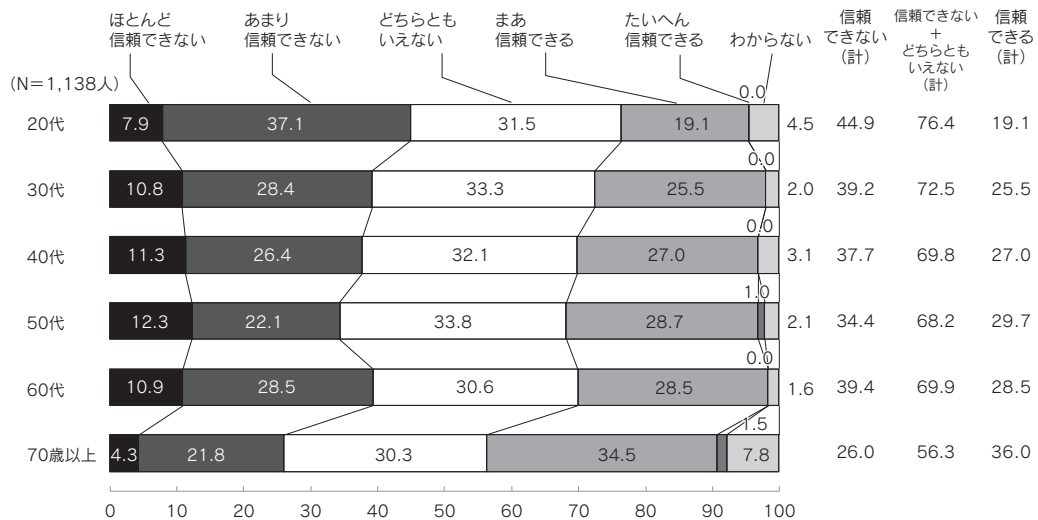


と高数値になっている。また、『信頼できない(計)』と「どちらともいえない」の合計は、20代から60代でおよそ7割だった。70歳以上の世代は比較的世論調査を信頼しているとはいえ、『信頼できない(計)』と「どちらともいえない」の合計が56.3%という結果だった。(図表19)

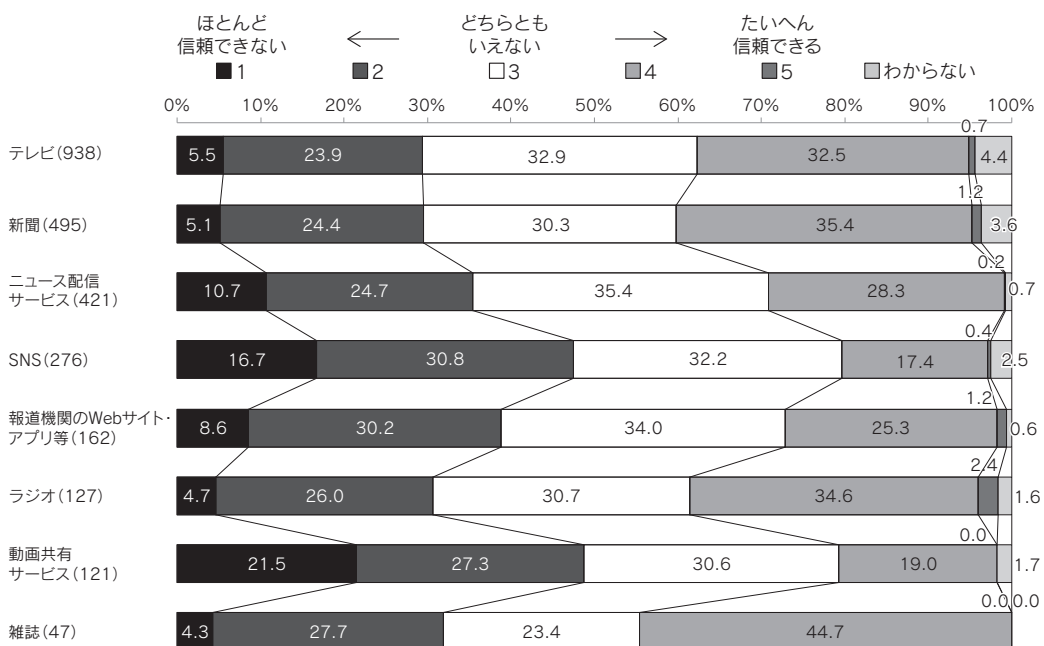
政治ニュース取得先別にみると、やはりSNS

を見ている層と、動画共有サービスを見ている層が特徴的だった。例えば、「ほとんど信用できない」がSNSだと16.7%、動画共有サービスだと21.5%とほかの層に比べて高く、一方で、「まあ信頼できる」はSNSが17.4%、動画共有サービスが19.0%と、2割に届いておらず、ほかの層と比べて低かった。(図表20)

図表19 世論調査の信頼感【年代別】(%)



図表20 世論調査の信頼感【政治ニュース取得先別】



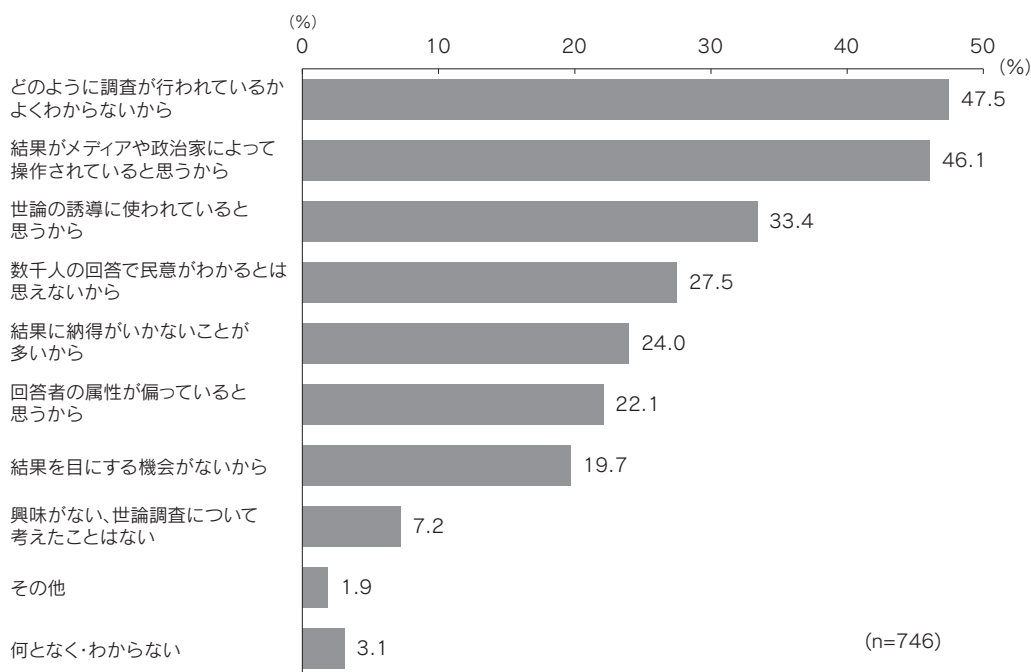
5. 世論調査が信頼できない理由

世論調査を信頼できない理由も今回新たにたずねた。

最も多かったのは、「どのように調査が行われているかよくわからないから」で、47.5%だった。それに続いて、僅差で2位だったのが「結果がメディアや政治家によって操作されていると思うから」(46.1%)、3位が「世論の誘導に使われていると思うから」(33.4%)で、世論調査の恣意

的な利用を疑う意見が上位に入った。4位以下は「数千人の回答で民意がわかるとは思えないから」(27.5%)、「結果に納得がいけないことが多いから」(24.0%)、「回答者の属性が偏っていると思うから」(22.1%)、「結果を目にする機会がないから」(19.7%)、「興味がない、世論調査について考えたことはない」(7.2%)となった。(図表21)

図表21 世論調査を信頼感できない理由



調査の概要

- 調査地域
全国
- 調査対象
満20歳以上男女個人(4000人)
- サンプルング法
層化三段無作為抽出法
- 調査方法
調査員による個別面接聴取法
- 実施時期
2025年10月3日から13日
- 調査機関
一般社団法人 中央調査社

●回収サンプルの構成

〈性別〉		
総数	男性	女性
1,138	506	632
100.0%	44.5%	55.5%

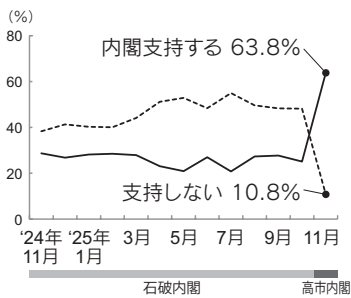
〈年代〉						
総数	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1,138	89	102	159	195	193	400
100.0%	7.8%	9.0%	14.0%	17.1%	17.0%	35.1%

◇ 告 知 板

11月の時事世論調査

11月の時事世論調査によると、憲政史上初の女性首相、高市内閣の支持率は63.8%だった。2001年の小泉内閣の72.8%に次ぐ歴代2位の高支持率。なお、不支持率は10.8%だった。

調査は全国18歳以上の男女2,000人を対象として11月7日から10日に実施、有効回収(率)は1,181(59.1%)だった。



この時期の国内の動きは、

日本、ブラジルに歴史的初勝利：サッカー国際親善試合が東京・味の素スタジアムで行われ、FIFA ランキング19位の日本代表は6位のブラジル代表を3-2で破り、歴史的勝利を挙げた(10月14日)。

村山元首相が死去：旧社会党委員長として自民党、旧新党さきがけと連立政権を組んだ村山富市元首相が大分市内の病院で死去した。101歳だった(10月17日)。

憲政史上初の女性首相：自民党の高市早苗総裁(64)は21日召集の臨時国会で第104代首相に指名された。女性の首相就任は初めて(10月21日)。

東京株、初の5万円台：27日の東京株式市場は全面高の展開となり、日経平均株価の終値は5万512円32銭と史上初めて5万円を超えた。米中対立の緩和や高市政権への期待も(10月27日)。

安倍氏銃撃初公判：2022年参

院選の応援演説中だった安倍晋三元首相を手製銃で殺害したとして、殺人罪などに問われた山上徹也被告(45)の初公判が奈良地裁で開かれ、被告は起訴事実を認めた(10月28日)。

社民・新垣副党首が離党届：社民党副党首の新垣邦男衆院議員(69)=沖縄2区=は沖縄県宜野湾市で記者会見し、離党する意向を明らかにした(11月2日)。

国外では、

ロンドン公演、大盛況で幕：大相撲のロンドン公演はロイヤル・アルバート・ホールで千秋楽が行われ、横綱豊昇龍が優勝した。会場には5日間「満員御礼」が掲げられ大盛況で幕を閉じた(10月19日)。

ルーブル美術館に強盗：フランス・パリの観光名所ルーブル美術館に4人組の強盗団が押し入り、展示品の宝飾品8点を奪って逃走した。被害額は推定159億円(10月19日)。

日米首脳、初会談：高市早苗首相は東京・元赤坂の迎賓館で、米国のトランプ大統領と対面では初の首脳会談を行い、日米同盟の強化を確認した(10月28日)。

米中首脳会談、6年ぶり：トランプ米大統領と中国の習近平国家主席はAPEC首脳会議開催地の韓国で会談し、貿易問題のほか台湾情勢も取り上げられたか(10月30日)。

ドジャースがWS連覇：米大リーグのワールドシリーズはカナダ・トロントで第7戦が行われ、ドジャースがブルージェイズに勝ち、2年連続9度目の頂点に立った。WSで3勝を挙げたドジャースの山本がMVPに選ばれた(11月2日)。

中国総領事は「日本国民を脅迫」：グラス駐日米大使は、中国の薛劍・駐大阪総領事が高市早

苗首相の台湾有事発言を批判したことについて「高市首相と日本国民を脅迫している」とX上で糾弾した(11月10日)。

政党支持率 自民党の支持率は前月から2.1ポイント増の21.8%で高市内閣の支持率ほどの伸びはなかった。連立与党になった日本維新の会は1.1ポイント増の2.9%だった。

野党第1党の立憲民主党は0.6ポイント減の3.6%、野党トップの参政党も0.8ポイント減で4.0%。以下、国民民主党は0.3ポイント減の3.5%、連立与党から離脱した公明党は0.4ポイント増の3.2%、共産党は先月と変わらず0.9%。支持政党なしは1.7ポイント減の54.4%だった。

政党支持率 (上段:11月、下段:10月)

政党	11月 (%)	10月 (%)
自民党	21.8	19.7
立憲民主党	3.6	4.2
参政党	4.0	2.8
国民民主党	3.5	3.8
公明党	3.2	2.8
共産党	0.9	0.9
支持政党なし	54.4	54.1

国民の景気感 「良くなった」は前月から1.8ポイント増の5.4%、「悪くなった」は6.5ポイント減の36.8%だった。時事世論景気指数は前月から21ポイント増加して70となった。

時事世論景気指数

年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
1月	129.1	126.0	120.0	131.9	130.0	109.9	25.0	34.6
2月	23.1	53.3	42	38	22	19		
3月	11	23	42	44	39	48	49	70

暮らし向き 昨年の今頃と比べて「楽になった」は2.0ポイント増の3.8%、「苦しくなった」は9.9ポイント減の35.8%となった。